



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第26回 JCHO 人吉医療センター研究発表会



研究発表会プログラム

No	演題名	演者
第1セッション 座長 牟田 大助 / 赤池 直子		
1	当院の認知症ケアチームの活動紹介 - 認知症ケア加算1取得後の効果と今後の課題 -	山口 幸恵
2	t-PA看護記録チェックシートの作成	今田 泉
3	人吉球磨地域の脳卒中急性期から回復期までの実態調査 - 脳卒中連携パス3年間のデータを用いて -	木野 早苗
4	栄養充足率による管理栄養士介入状況の評価	菟田衣里子
第2セッション 座長 永田 洋介 / 米倉 正博		
5	手術中の空気清浄度	杉崎 琴巳
6	血液製剤備蓄医療機関としての地域支援 - 血液製剤融通状況と適正備蓄管理 -	徳永さやか
7	第1心臓カテーテル検査室の線量分布図の作成と立ち位置の検討	高岡 大記
第3セッション 座長 白石 裕大 / 尾方 陽子		
8	JCHO 人吉医療センターの初期臨床研修の「いま」と「これから」	花牟禮 由美
9	当院におけるVAC療法と重症癒癒患者の一例	田中 一仁
10	Torsade de pointesを呈した患者の抜歯経験	石神 哲郎
11	急性冠症候群に対するDOACの使用経験	黒川 博文
市民公開講座 座長 木村 正美		
【市民公開講座】 循環器内科のあゆみ～5年でこんなに変わった!～ JCHO 人吉医療センター 循環器内科 部長 中村 伸一		

平成30年度12月15日(土)、清流山水花 あゆの里において第26回JCHO 人吉医療センター研究発表会が開催されました。

一般演題に11題、また中村伸一医師により「循環器内科のあゆみ～5年でこんなに変わった!～」というテーマで循環器内科の現状とこれからのための特別講演がありました。発表や特別講演では、他職種の取り組みや現状を聴講し、病院とは多くの医療従事者の協力、チーム医療により成り立っている事を改めて実感致しました。

この発表会に参加して他職種の日々の取り組みを把握すると共に、今後のどのような目標を持ち業務に取り組んでいくのか、院内の理解を含め、気持ちを新たにしたい機会となりました。

今回、私は「手術室の空気清浄度」について発表し

ました。初めての研究発表という事もあり、抄録やスライド作り・発表のやり方、分からない事が多く大変不安がありましたが、臨床工学技士の先輩や手術室スタッフにアドバイスを受けながら無事に発表日を迎えることができました。当日のステージ発表では大変緊張しましたが、研究発表を終えて自分自身でも成長でき、いい経験をさせて頂き感謝しています。

手術室は感染防止のため、厳密な空調管理が必要です。そこで、0.5 μm以上の浮遊粒子数を光散乱式自動粒子計測器という測定器を用いて手術室の空気の清浄度が保たれているかを検証しました。

その結果ですが・・・皆様、手術室の清浄度は保たれていますのでご安心ください!

臨床工学部 杉崎 琴巳

診療放射線技師 統一講習会

11月17・18日の2日間で診療放射線技師法の一部改正に伴う研修会（統一講習会）が人吉医療センターで行われ、熊本県外からの参加もあり28名が受講しました。

「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための法律整備に関する法律案」（医療・介護制度改正の一括法案）が、第186回通常国会において平成26年6月18日に成立し、6月25日に公布されました。

この一括法案の中には、医療従事者の業務範囲および業務の実施体制の見直しとして「診療放射線技師法」も含まれています。

今回の診療放射線技師法の改正には、CT・MRI検査時の造影剤の血管内投与、投与後の抜針・止血の行為、下部消化管検査の実施（カテーテル挿入を含めて）、画像誘導放射線治療時



腸内ガスの吸引のためのカテーテルの挿入などについて、診療の補助として医師の指示を受けて行うものとし、診療放射線技師の業務範囲に追加されました。

医療安全を担保した業務が提供できるよう、診療放射線技師としてさらなる責任をもって今後の業務に取り組みたいと思います。

画像診断センター 診療放射線技師 志水 祐太

KEMAT Kumamoto Emergency Medical Assessment and Triage

KEMATは、熊本の救急隊員を中心としてコース設計及び運営をしています。本コースは、救急現場における「一見軽症と判断しがちだけど実は致命的疾患」を見逃さない事を主眼とした教育プログラムで、講義・スキルブース・シミュレーションブースで構成されています。今まで学ぶ機会が少なかった内因性疾患に対する考え方や問診を学べるコースで、救急隊員のみならず看護師の方にもお勧めできる内容となっています。

人吉下球磨消防組合 救急救命士
KEMAT スタッフ 岩本 正弘



KEMATを初めて受講させていただき、救急現場で直結する初期評価、問診、病院連絡を学ぶことができました。初期評価、問診を隙なく確実に行うことで隠れている重症で緊急性の高い疾患に気づくことができることを講義やシミュレーションを通し、改めて実感し見逃すことがないようにしていかなければならないと思いました。

また病院連絡も、どのようにすれば迅速、確実に伝わるのか教えていただき現場で活かしていこうと思います。

人吉下球磨消防組合 救急救命士
KEMAT 受講生 内布 光

PEARS 研修

小児救急医療・看護の更なるレベルアップを目指し、AHA-PEARS プロバイダーコース（主催：Child Future 熊本）を当院で開催して頂きました。本コースは、小児の「評価・認識・病態安定化」を学ぶコースで、いわゆる体系的アプローチを講義・グループディスカッション・シミュレーションを通じて学ぶ内容になっています。クローズコースである為、受講生は当院看護師と地元の救急救命士のみであり、程よい緊張感で受講できたようです。

「救急要請の現場で最初に患児に接触する医療者は?」、「病棟で患児のそばにいつもいる医療者は?」、それは救急隊であり看護師と言えるでしょう。その責任と自覚を持ち、日々研鑽してまいります。

人吉医療センター 救急看護認定看護師 杉松 幸太郎



我々が小児救急に遭遇する機会は少ないですが、危険な兆候を見逃してしまうわけにはいきません。評価・判断があまく、介入が遅れてしまうことにより心停止の状態になってしまうと蘇生は極めて困難だと思われまます。

PEARSは評価・判断・介入を体系的アプローチにより実践的に実施することができ、内容も自分が求めるもので、受講生全員で解決に向け取り組める有意義なプログラムでした。

是非、受講することをお勧めします。

人吉下球磨消防組合 救急救命士 今溝 貴仁

当院開催のPEARSを受講しました。事前学習とテキストの内容を見ると、受講するまでは講義についていけない不安でいっぱいでした。しかし、その不安とは裏腹に講義は笑いもある和やかな雰囲気でも、楽しく学ぶことができました。その中でもシミュレーションは、刻一刻と変化して行く患児を目の前に体系的なアプローチを行い、そこから今起こっている現象を考え対応して行くことの難しさを痛切に感じ、またチームダイナミクスの重要性も再確認することができました。今回学んだ事を、今後の仕事の中で活かしていけるように頑張っていきたいと思います。このような貴重なコースを受講する機会を頂いたスタッフの方々に深く感謝します。

人吉医療センター HCU 看護師 宮川 望

地域緩和ケア研修会

今回は「がんにおける栄養管理、緩和ケアの栄養」をテーマとし、主に①フレイル・サルコペニアと低栄養の関係、必要な栄養素②悪液質における栄養管理③食事摂取不良・副作用に対する食事対応④ONS、経口補助食品についてお話しさせていただきました。

ターミナル期になると食欲・食事摂取量低下により低栄養となり、必要栄養量を十分に摂ることが難しくなっていきます。ターミナル期の栄養管理においては、「積極的な栄養管理」か

ら「食事の楽しみや心地よさ」を目的に切り替えたQOLの向上を目指すことが大切です。

食欲がなくなっていくことは自然のなりゆきであると受け止められるようにすること、その中で食べる楽しみの部分を充実させるにはどのようにすればよいかということを考えながら個々の患者さんに合った最良の栄養管理ができるよう、様々な工夫をしながら今後も取り組んでいきたいと思ひます。



栄養管理室 内田 紗椰

院内接遇研修会～アンガーマネジメントとは

アンガーマネジメントとは、「怒りと上手に付き合う」方法です。自分や他人の「怒り」に振り回されず、「怒り」を上手にコントロールすることで快適な生活やより良いコミュニ



ケーションを目指すもの。怒らないことを目指すものではなく、知識と技術を使って「怒り」を取り扱う「スキル」です。「怒り」というのは、社会生活上必ず付いて回る問題ですから、それに飲み込まれることなく、うまく立ち回れる技術を身につけることはとても役立つことです。

衝動のコントロール「怒りのピークは6秒間」

怒りのピークは6秒間。そのため、この6秒間怒りを抑えることができれば、怒りに任せた衝動的な行動を抑えることができます。衝動的、反射的に行動することはとても危険です。人を傷つけたり、関係を壊すような言葉を発するのも、大抵この衝動的、反射的な行動のはずです。「怒りを感じたらまずは6秒間やり過ごす」ことが大事です。

思考のコントロール「『べき』の範囲を広げる」

怒りは、自分が信じている「こうあるべき」という価値観が破られた時に生まれます。そのため、自分の「べき」の範囲を知ることが重要です。「べき」は人によって違います。自分はどこまでOKで、どこからがNGなのか、境界線を洗い出して理解しておくこと、不要な『べき』は捨て、許せる範囲を広げていく努力も必要です。また、譲れない『べき』は、適切に伝える（リクエストする）ことが大切です。

行動のコントロール「変えられないことはしょうがないと割り切る」

怒りの基には、変えられることと変えられないことがあります。せっかくの休日なのに雨…でイライラしても天気は変えることができません。変えられないことにイライラしたり、思い悩んだりすることは、不要なストレスを生むだけです。自分にコントロール不可能なことは「まあしょうがないよね」と割り切ること。自分が今できることに集中しましょう。

医事課 田崎 裕一

医療安全院内研修会

今回は「実践して欲しい医療安全活動」をテーマに11/22.27.28の3日間、全職員対象として医療安全院内研修が行われました。

研修では日頃起こり得る医療現場のアニメーション動画を見て、改めてチーム医療の大切さを考えることが出来ました。チーム医療を行う上でチームコミュニケーションを取ることで、日頃から「目配り」「気配り」を行い個々人のリスク感受性を高めることが必要になります。また気付いたことを報告・連絡・相談する際、伝えたいことが伝わらないと意味がありません。伝える側は伝えたいことが相手にしっかりと伝わるように、聴く側も相手が何を伝えようとしているのか聴き取るといったように、お互いに伝える・聴く努力をすることで正確な情報を共有することができます。

そうすることで報告・連絡・相談をし易い職場環境を築くことにも繋がっていき、安全な医療を患者さんに提供できるのだと感じました。



日々の業務内での医療安全活動を見直し、今後は今回の研修で学んだことを活かしていきたいです。また職種や経験年数の垣根を越え、良好なチームワークを築き病院全体で一丸となって全人医療に取り組んでいきたいと思ひます。

栄養管理室 北川 華奈江

RRS(Rapid Response System)をはじめました。

RRSとは、患者が予期し得ない突然の重症化（急変）、もしくは必要とする医療の提供を受けていない状態（院内救急）に陥った場合に提供されるセーフティネットのことをいいます。当院では今まで、ドクターハートコール＝急変したあとに医療スタッフを呼ぶシステムがありますが、それ以前になにかいつもと違うと感じた時に、いつでも相談できるシステムがRRSです。HCU・

ERの看護師が電話を受け、医師や管理当番の看護師長・副師長と共に駆けつけ、スコアに基づいた評価を行います。その後、適切な支援が受けられるように介入します。呼んでくれたスタッフへ【コールしてくれてありがとう】を合言葉に、最善な医療を提供していきます。

下川 恭弘・尾方 千恵

「はたちの献血」キャンペーン

「はたちの献血」キャンペーンは、毎年1月1日～2月28日までの2ヶ月にわたり全国で展開されています。(主催:厚生労働省・都道府県・日本赤十字社)

このキャンペーンは、献血者が減少しがちな冬期に安全な輸血用血液製剤を安定的に確保するため、新たに成人を迎える「はたち」の若者を中心に広く献血に関する理解と協力を呼びかけるものです。

当院でも日々多くの患者さんが輸血を必要としています。病気や薬の影響などで十分に血液をつくれなくなった人や、事故や手術などで大量出血した人に輸血が必要です。輸血せずに放置しておく、息切れや動悸、めまいなどが起こったり、出血が止まらなかったりして重症になると死に至ることもあります。

輸血の前には、医療スタッフが患者さんに、輸血の必要性や有効性など分かりやすく説明し、輸血を受ける同意を患者さんから得ます。その後、患者さんの血液型検査・不規則抗体検査や輸血する製剤との適合性を確かめる交差適合試験を行っています。輸血用製剤は日本赤十字社が献血時の問診、献血された血液の感染症検査などを行い、安全な輸血用血液製剤の製造・供給に努めています。しかし、病原体がごく微量であるため検査で検出できないなどの理由により、輸血によって病原体が感染するリスクがゼロではありません。

そのため、輸血して3か月後に輸血された患者さんの輸血後感染症検査を実施し、輸血により感染症になっていないかを検査しています。

当院には来年1月23日に献血車が来院予定です。どうぞご協力の程宜しくお願いします。

臨床検査技師 濱津 育宏

(1) 当日服用していても献血ができる薬

ビタミン剤	ミネラル剤	漢方薬
非ステロイド系抗アレルギー薬	抗ヒスタミン薬	高脂血症治療薬(エパデール製剤除く)
市販消化胃腸薬	予防目的の抗潰瘍薬	低用量ピル
女性ホルモン等	痛風・高尿酸血症治療薬	鼻、点眼、吸入、外用剤
緩下薬(便秘薬)	降圧薬	消炎・鎮痛ハップ剤

(2) 前日までの服用ならば献血ができる薬

市販風邪薬	鎮咳薬	抗不安剤
消炎酵素剤	前立腺肥大症治療薬	ブスコパン注射薬
睡眠剤	非ステロイド系抗炎症薬、鎮痛薬	

(3) 服用中止から3日間は献血ができない薬

抗うつ・そう薬	抗菌薬等	抗ウイルス薬
止痢剤	痛風発作治療薬(コルヒチン)	喘息治療薬(吸入薬を除く)
緊急ピル	ピロリ菌除去薬	利尿剤

(4) 病気の内容や重い副作用等により献血ができない薬

抗てんかん薬	抗血液凝固薬	抗甲状腺薬
抗不整脈薬	冠動脈拡張薬	強心薬等
ステロイドホルモン剤等	免疫抑制剤	抗がん剤
糖尿病薬	抗認知症薬	血管拡張薬

上記の内容は目安であり、最終的には献血会場の医師の判断となります。お薬を服用されている方は、受付時にスタッフまでお知らせください。

連携施設探訪

当院は、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して 地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。

今回は「熊本県高齢者向け有料賃貸住宅(グループ居住型) ひまわりの里」さんです。

熊本県高齢者向け有料賃貸住宅(グループ居住型)「ひまわりの里」 Vol.23

【施設特色】

ご夫婦で入居できる有料老人ホームです。代表の社長、スタッフともに、全利用者の出身地やお身体の状態を全て把握し、家族のような関係性を築いています。緑に囲まれた静かな環境で、ゆっくりとした時間を過ごして頂ける施設です

【対象者】 自立の高齢者から、要介護5の認定を受けた方どなたでもご利用できます。

【サービスの内容】

デイサービス 1日定員18名
特定施設サービス付高齢者住宅 19部屋23名
(全部屋2人入居可)
居宅介護支援事業所

【地域の皆様に一言】

当施設は、「ありのままの笑顔で暮らす」という理念のもと、開業してから15年目を迎えました。

地域から支えられ、また地域を支える一員として、「困ったからひまわりに相談してみよう」と皆様から思っていただけよう、毎日明るく営業中です!

何か困り事があった際は、気兼ねなくご相談ください。



【お問い合わせ】

TEL : 0966-38-3575 FAX : 0966-38-7678
生活相談員 福島昭子、統括責任者 吉本康貴

【訪問者の感想】

建物には窓が多く、色々な角度から日の光が差し込み、室内がとても明るく感じました。リビングの小上がり和室には天窓があり、スタンドグラスが使われていましたが、そこから差し込む光がとてもきれいでした。

また、共同のリビングにはテレビが3台も設置されていて、広いリビングのどこからでもテレビをみることができ、利用者の方にとっても配慮してある施設だと思いました。

第5回地域医療サポーター養成講座開催

H30年11月28日に第5回地域医療サポーター養成講座を開催しました。今回は「冬の感染症～インフルエンザを知り尽くせ～」と題し、別府のみ感染管理室看護師長に話しをしていただきました。

今回の講座ではインフルエンザウイルスの特徴や感染から完治までの流れ、インフルエンザの予防策について分かりやすく説明していただきました。



感染症にかからないためにも、個々が正しい予防を行っていくことが大切です。もう一度ご自身の感染予防について振り返ってみていただければと思います。

今回の講座を持って今年度の地域医療サポーター養成講座は終了となりました

が、来年度も引き続き講座の開催を実施したいと考えていますので多くの皆様のサポーター登録、講座参加をお待ちしております。

＜参加者の感想をいただきましたので一部紹介させていただきます＞

- ・非常にわかりやすい説明で、身近な方にも伝えていきたいと思えます。
- ・インフルエンザについて意外と知らないことが多かったので勉強になりました。
- ・他の感染症についてもぜひ講演してほしいです。

＜お問い合わせ先＞

事務局：JCHO 人吉医療センター 医療福祉連携室

TEL：(0966) 22-2191 FAX：(0966) 22-7879

第29回屋内消火栓操法指導会

平成30年11月14日第29回屋内消火栓操法指導会が人吉下球磨消防組合で行われました。当院の代表として、選ばれし看護部男性3名で出場しました。当日まで手にまめがで、血のにじむ練習を重ね、臨みましたが結果は29チーム中9位でした。参加するまでは病棟の消火栓もあまり気にならなかったのですが参加後は当院の消火栓はどうなっているのかを確認するようになり防火意識の向上につながったと思います。また、防火、防災の講話もあり火災のほとんどの原因には人が絡んでいるとのこと。当院でも多くの人が入り出しています。あつてはいけません。いつ火災が起きても冷静に行動できるように有事の際は入院患者様を守るために病棟スタッフにも今回、学んだ事を周りのスタッフにも伝達して、防災意識を高めていきたいと思っています。



5階病棟看護師 宮原 直也

第5回ファーストエイド実技コース開催

11月10日、当院で5回目の「ファーストエイド実技コース」を開催しました。

この研修は場所や状況を問わずに発生する救急・急変時に、適切な緊急対応・応急処置などの救護活動ができる人材育成を目的としています。

緊急性の判断から初期対応までの一連の流れを、いくつもの症例を実践していきます。今回は当院の看護師だけでなく、県外からも受講いただき、「普段の救急で対応することのない事例を研修し学びが多かった」と喜んでいただきました。



今後も、定期的に開催していき、救急看護の質の向上に貢献できるように努力してまいります。

【写真】
5階西病棟看護師
三倉 範子



総親会忘年会



12月15日(土) 研究発表会後、忘年会を開催しました。

院長挨拶、人吉市市長挨拶、来賓紹介が行われ、倫理審査委員会外部委員の有馬様による乾杯のご発声で忘年会が始まりました。今年の忘年会には、300人を超える職員が集結し、また、毎年恒例となっている各部署新人による出し物も過去最高の13組(総勢120人)の参加で行われ、大いに会場を沸かせていました。どのチームも趣向を凝らしてあり、あつという間に時間が過ぎていき、楽しい夜となりました。

医療福祉連携室 今井 志帆

12月の勉強会報告

12月5日(水)慢性疼痛治療学術講演会

「腰痛・下肢痛診療のピットフォール～サインバルタしようの実際～」
熊本医療センター 整形外科 医長 田畑 聖吾先生

12月12日(水)第96回 乳腺カンファレンス

「乳癌治療ガイドライン2018再発乳癌について」
当院 外科 地下 奈緒乳がん看護認定看護師
「当院におけるイブランスの使用経験」
当院 臨床研修医 耕 佳徹先生
「巨大葉状腫瘍の切除例と過去の当院の症例について」
当院 臨床研修医 田中 一仁先生